

2013 年度前期 工学部都市環境システム学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1E020101	通信工学概論 I	3 年前期月曜 3 限	塩田 茂雄	T1E 1
T1E020102	通信工学概論 I	3 年前期水曜 7 限	塩田 茂雄	T1E 2
T1E046101	ネットワーク基礎	2 年前期月曜 2 限	須貝 康雄	T1E 3
T1E046102	ネットワーク基礎	2 年前期月曜 7 限	須貝 康雄	T1E 5
T1E047101	都市環境プロデュース	2 年前期木曜 6 限	柘植 喜治	T1E 7
T1E050101	環境エネルギー工学	3 年前期金曜 4 限	中込 秀樹	T1E 8
T1E057101	建築計画 I	3 年前期金曜 6 限	小林 秀樹	T1E 9
T1E065101	景観計画	3 年前期水曜 4 限	宮脇 勝	T1E 10
T1E065102	景観計画	3 年前期水曜 7 限	宮脇 勝	T1E 11
T1E070101	環境工学 I	2 年前期月曜 6 限	(菊池 卓郎)	T1E 12
T1E073101	環境リサイクル化学	3 年前期木曜 6 限	大坪 泰文他	T1E 13
T1E075101	都市計画	2 年前期水曜 6 限	村木 美貴	T1E 14
T1E078001	構造力学演習 I	2 年前期金曜 7 限	関口 徹	T1E 15
T1E084101	国土・交通計画	3 年前期金曜 5 限	丸山 喜久	T1E 16
T1E094002	図学演習	3 年前期土曜 1 限	郭 東潤	T1E 17
T1E096003	都市空間工学演習 I	3 年前期土曜 3,4 限	(中谷 正人) 他	T1E 18
T1E101001	環境エネルギー化学工学	3 年後期木曜 6 限	小倉 裕直	T1E 19

授業科目名	: 通信工学概論 I (旧名称「マルチメディア論」)
担当教員	: 塩田 茂雄
年次・開講時限	: 3 年前期月曜 3 限
授業コード	: T1E020101
授業アンケート	: 回答者数 29 人 / 受講者数 50 人 (回収率 58%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 25 件)

教科書代わりに用いるには情報量が不足している, という意見があったので, 次年度から対応したい.

Q10. 授業では宿題, レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか? (回答 26 件)

授業の最後に行った演習の内容をもっと授業中に説明して欲しいと, という意見があったので, これも次年度から改善したい.

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 26 件)

良く分かるという意見と, 全くわからないという意見の両方があった. どちらに合わせるべきか, 判断に迷うところであるが, 次年度はやや易しくすることとする.

2. 授業アンケート全体に対するコメント

情報通信ネットワークは日々進化する技術であるため, 授業の内容も毎年少しずつ変更している. 授業のレベルも皆さんの意見を聞いて調整していきたいので, 注文があったら遠慮なく, アンケートに記入していただきたい.

3. その他のコメントや連絡事項

作成 (者): 塩田 茂雄

授業科目名	: 通信工学概論 I (旧名称「マルチメディア論」)
担当教員	: 塩田 茂雄
年次・開講時限	: 3 年前期水曜 7 限
授業コード	: T1E020102
授業アンケート	: 回答者数 1 人 / 受講者数 1 人 (回収率 100%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

2. 授業アンケート全体に対するコメント

月曜日の 3 限の授業と授業内容は同じです。アンケートを踏まえた、次年度以降の改善も同じなので、月曜日 3 限の授業の「授業評価」を見てください。

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 塩田 茂雄

授業科目名	: ネットワーク基礎 (旧名称「グラフ理論」)
担当教員	: 須貝 康雄
年次・開講時限	: 2 年前期月曜 2 限
授業コード	: T1E046101
授業アンケート	: 回答者数 20 人 / 受講者数 41 人 (回収率 49%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q3. 教員の声はよく聞こえましたか? (回答 18 件)

全体平均 4.47 に対して、4.83 という良い結果が得られている。標準的な講義室を使用しているため、マイクは使っていないが、なるべく大きな声で説明することを心掛けている。講義終了時間に近づき、その日予定している内容説明が遅れている場合、早口になる傾向があるので、説明の仕方を工夫することにより早口にならないように注意したい。

Q7. 教室の環境は満足できるものですか? (回答 18 件)

全体平均 4.46 に対して、4.39 というやや低い結果が得られている。その理由として質問 8 の結果を見ると、温熱環境に不満という回答が最も多い。エアコンの温度調節をこまめにすべきということなのか、部屋の温度分布が一様でないのか、理由は不明。

Q9. 例題, 例え話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 18 件)

全体平均 4.21 に対して、4.50 という良い結果が得られている。グラフ理論の基礎は抽象的な概念が多く、毎年、具体的な例を増やすこと、また、具体例を演習問題として学生に黒板で解かせるように意識している。そのことが結果として現れていると考えられる。

Q11. 授業内容の量を考慮すると、進度は適切でしたか? (回答 18 件)

全体平均 4.20 に対して、4.33 という結果であり、全体平均を上回っているが、質問 9 に対するコメントに記述したように、具体例を増やすことにより、全体の内容自体は年々減らさざるを得ない状況である。必要な内容を削除することなく、かつ、十分な具体例を盛り込めるような工夫が必要であると考えられる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

板書の講義をしている。内容はグラフ理論の基礎である。学生が手を動かして理解することが重要であると考えている。手書きにより手と脳を連動させて、用語の意味や定理などの導出過程を理解することと、教員が間違えた説明や板書の箇所を見つけさせることが目的である。印刷物や黒板に書かれた内容はすべて正しいという認識を捨てさせ、自分で納得した上で理解する習慣を身に付けさせるためである。そして、教員がどのような思考過程で間違い訂正するのかを観察することは貴重な機会である。このような機会は完成された印刷物や PC を利用した学習では決して得られない講義の本質とでも言うべき機会である。

この科目は選択必修科目であるが、情報、システム、コンピュータを始めとして、非常に広い範囲で基礎となる科目であるため、情報・システム関連に興味がある学生だけでなく、すべての学生に履修してほしい科目である。そのため、限られた授業時間では、本来必要な内容の相当部分を切捨て、単位取得後に学生が自分でグラフ理論を勉強できるように、最低限必要な用語の説明と理解しやすい基本的な考え方を、なるべく多くの例題を取り入れながら講義している。

今年度も、「例題が多く理解しやすかった」、「説明がわかりやすかった」、「授業は面白かった」等の評価を受けている。今後も例題を多く取り入れた、わかりやすい講義を心掛けたい。

3. その他のコメントや連絡事項

アンケート結果の数値を正しい数値としてここまで記述しているが、数値の信頼度に疑問を感じる。本来回答すべきでない項目について回答しているケースが多々あるためである。

- ・質問 4 : マイクを使用していないにもかかわらず、マイク使用の場合の選択肢を選択している。
- ・質問 17 : TA はいないにもかかわらず、TA に関して回答している。
- ・質問 17 ~ 質問 26 : 講義科目であるにもかかわらず、実験・演習用のこれらの質問すべてに回答者がいる。

作成 (者) : 須貝康雄

授業科目名	: ネットワーク基礎 (旧名称「グラフ理論」)
担当教員	: 須貝 康雄
年次・開講時限	: 2 年前期月曜 7 限
授業コード	: T1E046102
授業アンケート	: 回答者数 6 人 / 受講者数 8 人 (回収率 75%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q3. 教員の声はよく聞こえましたか? (回答 6 件)

全体平均 4.47 に対して、5.00 という良い結果が得られている。標準的な講義室を使用しているため、マイクは使っていないが、なるべく大きな声で説明することを心掛けている。講義終了時間に近づき、その日予定している内容説明が遅れている場合、早口になる傾向があるので、説明の仕方を工夫することにより早口にならないように注意したい。

Q7. 教室の環境は満足できるものですか? (回答 6 件)

全体平均 4.46 に対して、4.33 というやや低い結果が得られている。その理由として質問 8 の結果を見ると、「温熱環境に不満」という回答と「室内や外部からの音がうるさい」という回答が半々である。エアコンの温度調節をこまめにすべきということなのか、部屋の温度分布が一様でないのか、また、講義の時間帯は 7 限目なので、外部からの音がうるさいことは考えられず、少人数で私語をかわす学生がいないことも把握しているので、理由は不明。

Q9. 例題、例えば話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 6 件)

全体平均 4.21 に対して、5.00 という良い結果が得られている。グラフ理論の基礎は抽象的な概念が多く、毎年、具体的な例を増やすこと、また、具体例を演習問題として学生に黒板で解かせるように意識している。そのことが結果として現れていると考えられる。

Q11. 授業内容の量を考慮すると、進度は適切でしたか? (回答 6 件)

全体平均 4.20 に対して、4.83 という結果であり、全体平均を上回っているが、質問 9 に対するコメントに記述したように、具体例を増やすことにより、全体の内容自体は年々減らさざるを得ない状況である。必要な内容を削除することなく、かつ、十分な具体例を盛り込めるような工夫が必要であると考えられる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

板書の講義をしている。内容はグラフ理論の基礎である。学生が手を動かして理解することが重要であると考えている。手書きにより手と脳を連動させて、用語の意味や定理などの導出過程を理解することと、教員が間違えた説明や板書の箇所を見つけさせることが目的である。印刷物や黒板に書かれた内容はすべて正しいという認識を捨てさせ、自分で納得した上で理解する習慣を身に付けさせるためである。そして、教員がどのような思考過程で間違い訂正するのかを観察することは貴重な機会である。このような機会は完成された印刷物や PC を利用した学習では決して得られない講義の本質とでも言うべき機会である。

この科目は選択必修科目であるが、情報、システム、コンピュータを始めとして、非常に広い範囲で基礎となる科目であるため、情報・システム関連に興味がある学生だけでなく、すべての学生に履修してほしい科目である。そのため、限られた授業時間では、本来必要な内容の相当部分を切捨て、単位取得後に学生が自分でグラフ理論を勉強できるように、最低限必要な用語の説明と理解しやすい基本的な考え方を、なるべく多くの例題を取り入れながら講義している。

今年度も、「例題が多く理解しやすかった」、「説明がわかりやすかった」、「授業は面白かった」

等の評価を受けている。今後も例題を多く取り入れた、わかりやすい講義を心掛けたい。

3. その他のコメントや連絡事項

アンケート結果の数値を正しい数値としてここまで記述しているが、数値の信頼度に疑問を感じる。本来回答すべきでない項目について回答しているケースが多々あるためである。

- ・質問 17 : TA はいないにもかかわらず、TA に関して回答している。

- ・質問 17 ~ 質問 26 : 講義科目であるにもかかわらず、実験・演習用のこれらの質問すべてに回答者がいる。

作成(者): 須貝康雄

授業科目名	: 都市環境プロデュース (旧名称「都市環境プロデュース I」)
担当教員	: 柘植 喜治
年次・開講時限	: 2 年前期木曜 6 限
授業コード	: T1E047101
授業アンケート	: 回答者数 23 人 / 受講者数 46 人 (回収率 50%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q9. 例題, 例え話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 21 件)

基礎演習と連動して、都市をプロデュースする様々な実例を、世界中の都市からピックアップして、画像や動画で見せたことがわかりやすさに繋がったと思います。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 22 件)

講義だけでなく、ハッシュタグによる twitter など、いろいろなコミュニケーション手段により、質疑応答、参考資料提供、関連する YouTube や TV 番組紹介を行ったことが学生の理解に繋がった。

Q17. TA (ティーチングアシスタント) がいた場合、この演習・実験・実習科目の理解に役立つように人数が確保されていましたが? (回答 14 件)

TA は毎回 2 名が参加、授業記録およびその公開、また先生の講義に連動する、画層や動画をリアルタイムで見せるなど TA の協力が役にたった。また先輩としての仲良くして研究室を訪問するなど他学年との情報共有に役立った。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

全体を通して他大学との連携や地域連携など学外との関わりが良かった点として挙げられている。また対外的な評価を得るために学外に対する活動も試みた。現代の都市デザインが直面する問題とその解決に対する提言を通して、より実践的かつ客観的な計画手法を学んだことを評価する声が多かった。さらに商業技術者団体連合会主催のデザインコンペに参加、受講生のなかから優秀賞を含む多くの受賞者をだすなどして、学生達も自信をつけた。

3. その他のコメントや連絡事項

都市環境プロデュースが極めて実践的な領域であるために、国内外の都市開発事例の紹介やデザイン計画図など実践的なプロジェクトの資料を使うことを重視している。更に現場教育を重視、地元開発者、行政、設計者に対して接点をつくり、学生達の実践的な体験を重視している。また社会人学生の講義に対するニーズや、講義時間外に対応するために、ネットワークを活用、授業資料、参考資料を HP に掲載し、ネットを活用したディスカッションなど多角的な授業の組み立てと取り組みを展開している。都市環境システムの諸相全般にわたりプロデュースの視点から幅広く捉えることを授業の目的としたい。空間デザインや建築計画、都市計画の講義および演習にとどまらず、都市文化や農業政策など社会学的アプローチ、事業計画や不動産など経営学的内容など、プロデュース分野がカバーする領域を広く講義する。

作成 (者): 柘植

授業科目名	: 環境エネルギー工学
担当教員	: 中込 秀樹
年次・開講時限	: 3年前期金曜 4 限
授業コード	: T1E050101
授業アンケート	: 回答者数 49 人 / 受講者数 70 人 (回収率 70%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q1. この講義のシラバスについて、該当するものを全て選択して下さい。(回答 46 件)

受講生からのコメントとしては、配布資料の全部を教えることができなかったが、「他の部分を家で読むのが面白かった」ということにて配布した甲斐があった。また「参加型の授業でよかった」ということに対して、「指名するのではなく、手を上げて答えたいこともあるので、そういう機会を設けて欲しい」との意見もあった。外部からの講師の話は概ね好評であり、「現場の生の話が聞けてよかった」、「実際のプラントに是非見学に行ってみたい」などがあった。またある学生は講義で紹介した北海道のプラントに実際に見学に行ってきたので、見学記を授業の中で紹介してもらった。一方、途中退席してしまう学生もいたように、最初のみでなく講義終了時にも出席を取り直したり、毎回簡単なレポート等を出してもらったほうが良いかもしれない。また指されることで緊張感が持続できたとの意見もあった。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

都市環境基盤工学は廃棄物、リサイクル、エネルギー問題などの環境に関わる基本事項を勉強することを目的としている。環境工学は多くの学問領域からなりたっており、基礎学問を積み上げていくには学ぶべきものが多すぎると思われる。従って学部三年というまだ若い学生たちを対象に、世の中で現実に問題となっている事柄を見せることにより、興味のあるジャンルや事象をまず選んでもらうことが講義の狙いである。その上で、その中の技術課題を解決するための基礎学問を会得してもらいたいことを望んでいる。従って、講義では折に触れて技術の最先端領域にて実際に活躍している方々にも来て頂いて話をしてもらいたい機会を作っている。それでも一回 90 分×半年分の講義の中で伝えられることが少ないことが大きな悩みである。全ての講義、演習においては、できるだけ学生達にも授業に主体的に参加してもらいたいを行っている。とはいっても基礎知識の無い状態から始めるので、最初はテキストを声を出して読むことからスタートするが、最後のほうではかなり積極的に意見を述べたり、議論を戦わせたりすることができるようになる。また最初は声も小さかったり、下を向いていたりする者が多かったが、授業が進むに連れて大きな声ではっきりと発言できるようになっていく。

3. その他のコメントや連絡事項

以上を踏まえて、さらに学生たちに興味を持てる授業へと発展させることと、毎回小レポートを行う等のきめ細かな対応を行って、より緊張感と理解度を深めていきたい。本当は後半の授業では、小グループに分けて議論を行うなどをやりたいのだが、受講生が多いのでままならない面がある。また半年の講義時間内でやれることの少なさは大きな悩みである。学生たちも多くの授業を抱えて忙しいと思うが、プロジェクト研究のように各人何かテーマを決めて半年間に渡っている調べることができる、より理解が深まるであろう。また今後の基礎学問の習得も忘れないように願いたい。

作成(者): 中込 秀樹

授業科目名 : 建築計画 I (旧名称「建築計画」)
担当教員 : 小林 秀樹
年次・開講時限: 3 年前期金曜 6 限
授業コード : T1E057101
授業アンケート: 回答者数 43 人 / 受講者数 59 人 (回収率 73%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 40 件)

講義はパワーポイントを用いるとともに, 主要な画面を配布している。わかりやすさに努めており, その効果が現れている。

Q10. 授業では宿題, レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか? (回答 40 件)

小レポートは講義の内容の重要ポイントを問うもので, 理解の手助けになるとともに成績点の基本になる。講義を聴いていないと書きにくいテーマになっており, その趣旨が理解されているものと考えている。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 40 件)

質問の時間が足りない傾向があり, 質問が少なめである。なるべく時間をとるので, 積極的な質問を期待したい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

授業全体の満足度は高い。これを踏まえて, 最新の事例を取り入れつつも, 基本は現在の授業内容と方法を踏襲したいと考えている。

3. その他のコメントや連絡事項

建築計画の講義ですが, 授業は「モノづくり」に共通する内容が多く含まれます。将来の専門分野を考えるヒントにもなるでしょう。

作成 (者): 小林

授業科目名	: 景観計画
担当教員	: 宮脇 勝
年次・開講時限	: 3 年前期水曜 4 限
授業コード	: T1E065101
授業アンケート	: 回答者数 17 人 / 受講者数 24 人 (回収率 71%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 15 件)

「はい」と答えた人が 73.3%、「ややそうといえる」と答えた人が 20%、合計 93.3%の人がこの授業で質問をしていて、非常に高い割合で問題意識を抱いている。質問の少ない学生が多い昨今、授業による基本的な教育啓発はできていると考えられます。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 14 件)

「はい」と答えた人が 50%、「ややそうといえる」と答えた人が 35.7%、残りが「どちらでもない」と答えた。したがって、合計 85.7%の人が授業を理解できていて、理解できないと答える人はいなかった。平均値は 4.36 (5 点満点) であり、非常に高い割合で、本授業を理解していると考えられ、質問をしたことと、理解度とが共に高いので、良好な状況であると考えられます。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 15 件)

「はい」と答えた人が 60%、「ややそうといえる」と答えた人が 40%で、平均値は過去最高の 4.60 (5 点満点) に達していて、全員この授業に満足する結果を得ています。この結果に、こちらでも大変満足しています。学習したことを、今後に活用して頂きたいと思います。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

授業中はよく集中して勉強している様でした。質問内容も、的確な人が多かった。レポートの内容からも、理解度が確認されましたが、本授業評価アンケートの結果を見ても、受講生の学習到達度は、達成できたものと思われれます。

3. その他のコメントや連絡事項

次年度は、私の担当している都市空間工学演習 1 と共に連携し、さらに本授業の景観計画の理解度を上げると共に、演習だけでなく、卒業計画や卒業論文、社会での実務に応用して頂くことを期待しています。

作成 (者): 宮脇 勝

授業科目名	: 景観計画
担当教員	: 宮脇 勝
年次・開講時限	: 3 年前期水曜 7 限
授業コード	: T1E065102
授業アンケート	: 回答者数 23 人 / 受講者数 30 人 (回収率 77%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 22 件)

「はい」と答えた人が 54.5%、「ややそうといえる」と答えた人が 13.6%で、合計 68.1%と約 3 分の 2 の人は質問を行っている。比較的良好であると言えるが、質問をしなかった人が約 3 分の 1 いました。理解していれば質問をする必要はありませんが、理解できなかった人には、もっと質問を促すようにしたいと思います。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 22 件)

「はい」と答えた人が 34.6%、「ややそうといえる」と答えた人が 23.7%で、合計 58.3%の人が、理解を示している。一方、「どちらでもない」と答えた人が 23.7%いて、あいまいな答えである。そのため、理解度は、思ったほど高いとはいえないことがわかりました。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 22 件)

「はい」と答えた人が 34.6%、「ややそうといえる」と答えた人が 13.6%で、合計 48.2%の人が、満足を示している。しかし、「どちらともいえない」と答えた人が 31.8%いて、やはり、あいまいな回答の人もすくなくない結果となっています。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

本授業は、夜間の開講授業であるが、このアンケート結果のうち、理解度と満足度に対し、あいまいな回答をした人がいる部分について、昼間の同じ授業のアンケート結果と大きく異なっています。同じ授業で昼の授業の理解度が 4.36 (5 点満点)、満足度が 4.6 という結果なのに対し、夜の授業の理解度が 3.86、満足度が 3.59 と 1 ポイント近くも差がありました。これは例年よりも低い結果でもあります。これは、夜間の授業での質疑応答の不足のみならず、学力の低下も考えられます。授業内容は基礎的なものばかりで、社会的な内容が多いので、例年は社会人の理解度も比較的高かい授業でした。このため、今後は様子を注意して見たいと思います。必要があれば、夜間の授業内容の難易度を少し下げ、もっと教科書の予習を義務付けるなど、理解度を上げるための何らかの対応を考えたいと思います。

3. その他のコメントや連絡事項

編入生、社会人とも、質問の内容は的確な人が多かった印象です。次年度は、各テーマの授業の最後に、理解度を確認しながら、進めたいと思います。

作成 (者) : 宮脇 勝

授業科目名	: 環境工学 I (08T 以後学生用)
担当教員	: 菊池 卓郎
年次・開講時限	: 2 年前期月曜 6 限
授業コード	: T1E070101
授業アンケート	: 回答者数 34 人 / 受講者数 67 人 (回収率 51%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q11. 授業内容の量を考慮すると、進度は適切でしたか? (回答 32 件)

扱う内容が多いこともあって、理解できないまま先に進んでしまうこともあると思います。空気や熱、音など見えないものを扱うことも理解の妨げになっているようです。少し要点を絞るとともに、環境を可視化するなど理解を助ける教材を増やしていきましょう。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

環境工学 I で扱う内容はとても多く、半期でそれを習得するのは大変なことだと思います。受講するみなさんは事前に参考書の該当する章に目を通しておくと効率的です。少しの予習が理解できないまま過ごす 90 分の苦痛から解放してくれます。

3. その他のコメントや連絡事項

環境工学は自分を取り巻くもの「環境」を扱う学問です。理解できると世界の捉え方が変わる大変面白い学問です。

疑問があれば遠慮せずどんどん質問してください。授業が終わってからも良いです。学生の皆さんからのフィードバックでより良い授業にしていけることができます。

作成 (者): 菊池卓郎

授業科目名	: 環境リサイクル化学 (旧名称「環境材料化学」)
担当教員	: 大坪 泰文, 廣瀬 裕二
年次・開講時限	: 3 年前期木曜 6 限
授業コード	: T1E073101
授業アンケート	: 回答者数 15 人 / 受講者数 27 人 (回収率 56%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか？ (回答 14 件)

教員としてアンケート項目中、最も重要と考えるのは授業の満足度であり、この評点は 4.36 であった。概ね受講者が期待する内容の講義であったと思われる。この科目は環境問題に関する化学の基礎とその解決法に関するものであるが、適当な参考書がないため、毎回、講義内容をまとめた資料を配布している。これが後の復習に役立っているものと考えられる。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか？ (回答 14 件)

次に重要なのは授業の理解度であり、この評点は 3.71 であった。授業の満足度に関する評点からするともっと高い評点が期待されるが、両者には大きな差が認められた。この講義には社会人が受講しており、高校で化学を学んでいない学生もいる。このため化学の基礎知識が不足している学生からすると、理解できない点もあったものと考えられる。

Q5. 板書、OHP、スライドなどは、見やすかったですか？ (回答 14 件)

この評点は 4.57 であった。この科目は地球環境やリサイクルなど資源循環に係る問題を化学としてその本質と解決法を理解することを目的としている。実際の環境問題を解決するためには事実の認識が重要であり、そのためパワーポイントを使って様々なデータを紹介している。ノートを取ることは難しくなるが、事例紹介が重要であると考え、直感的に把握し易くできるようにしたことが高い評点になったものと考えられる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

昨年度から担当者および内容が大幅に変わったが、概ね満足してもらえらる講義であったと考えている。講義中は、常に環境問題解決のための実践法を考えるようにしてほしい旨の受講姿勢を求めてきた。この目的は達成できたように思う。前項目で、配布した資料が後の復習に役立っていると書いたが、この目的のためであれば宿題やレポートが効果的であり、学生にこれらを課すことも求められている。しかし、受講者の中には社会人がおり、仕事などの都合で期限を守ることが困難な状況も起こりえる。受講生の事情に配慮することと公平に評価することとのバランスを考慮して宿題を出している。

3. その他のコメントや連絡事項

化学の基礎と具体的解決方法に関する講義であるが、工学の中で学ぶ以上、定量的な取り扱いが不可欠となる。残念ながら、講義中、数式に興味を持たないという表情の受講生が多く見られ、数学的基礎知識が不足していると感じられた。これは今年度に限らず、最近の受講生に共通の傾向のようである。理解度を深めるという観点から数学的記述をなるべく少なくしてきたが、この弊害が大学院学生の数学力不足につながっているように思う。学生の学習意欲を損なうこと無く、数学的知識を高めるような工夫をしたいと考えている。

作成 (者): 大坪 泰文

授業科目名	: 都市計画
担当教員	: 村木 美貴
年次・開講時限	: 2 年前期水曜 6 限
授業コード	: T1E075101
授業アンケート	: 回答者数 43 人 / 受講者数 75 人 (回収率 57%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 40 件)

教材は理解に役立ち (79.5 %)、声もよく聞こえ (95.2 %)、スライドも見やすい (75.6 %) というのに対して、理解できたかという点、はいが 25 %、ややそうとも言えるが 37.5 % と低くなる。より高い理解度を求めるためには、質問等をするなどのこちら側からのアプローチも必要だと感じた。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 38 件)

Q15 と同様に満足度も「はい (42.1 %)」よりも「ややそうとも言える (44.7 %)」の方が多い。満足度を高めるための取り組みが必要だと思われる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

ただ単に規制制度の都市計画を覚えるのではなく、なぜ都市がそのようなルールの上に成り立っているのか、を考えて欲しいと思う。

3. その他のコメントや連絡事項

部屋の広さについては、毎年を受講者の数が不透明なので決めづらいが、概ね授業に対するコメントがポジティブであった。今後も、より積極的に実例や現在の法制度の動き、国の考え方などの、都市計画の実践について説明をしていきたいと考える。

作成 (者): 村木美貴

授業科目名	: 構造力学演習 I
担当教員	: 関口 徹
年次・開講時限:	2 年前期金曜 7 限
授業コード	: T1E078001
授業アンケート:	回答者数 34 人 / 受講者数 60 人 (回収率 57%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 31 件)

平均 4.3

板書はなるべく大きく色も効果的に使用するよう努めているが, 後ろに座る学生を少しでも前に座ってもらいたい。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 31 件)

平均 3.4

質問していない学生が多く, 演習なので質問しやすい環境づくりに努めたい。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 31 件)

平均 3.8

「どちらともいえない」が最も多く, 講義についていけなかったとしても演習でフォローできるようにしたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

Q16 の授業の満足度としては平均 4.3 で講義の理解を深めるための演習としてはそれなりに満足しているようで良かった

3. その他のコメントや連絡事項

構造力学 I はそのあとに続く構造力学 II や建築一般構造などの基礎となるものです。演習は講義に引き続き行っており, 問題を解いて内容の理解を深めるためのものですので必ず併せて受講してください。

作成 (者): 関口 徹

授業科目名	: 国土・交通計画 (旧名称「交通計画」)
担当教員	: 丸山 喜久
年次・開講時限	: 3 年前期金曜 5 限
授業コード	: T1E084101
授業アンケート	: 回答者数 58 人 / 受講者数 85 人 (回収率 68%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 54 件)

講義ノートは Web へ掲載しており, 講義内容の理解に役立ったものと考えられる .

Q3. 教員の声はよく聞こえましたか? (回答 54 件)

がんばって大きな声を出した成果だと考えられる .

Q16. 全体を通して, この授業に満足しましたか? (回答 53 件)

満足した人が多くてよかったです .

2. 授業アンケート全体に対するコメント

3. その他のコメントや連絡事項

作成 (者): 丸山喜久

授業科目名	: 図学演習 (3 年次編入生)
担当教員	: 郭 東潤
年次・開講時限	: 3 年前期土曜 1 限
授業コード	: T1E094002
授業アンケート	: 回答者数 3 人 / 受講者数 4 人 (回収率 75%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q10. 授業では宿題、レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか？ (回答 3 件)

授業内容に関する評価項目では、全ての受講生から役立てると評価された。この演習科目は、製図用具の使い方や平面図形の描き方などの基礎編から解説し、毎回のトレーニングを通して理解を深めていくように配慮している。さらに都市・建築の設計や空間デザインなどの高度な設計や製図につながるように、わかりやすく、基礎力を養うことを心がけて取り組んでいる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

この演習科目は、都市・建築の設計や空間デザインなどの高度な設計や製図につながるように、わかりやすく、基礎力を養うことを心がけて取り組んでいる。そして都市的空間・建築的空間を把握し、操作、表現する能力を涵養し、デザインの思考展開および伝達手段として必要な三次元空間表示のため、基礎的図法の理論的な学習とトレーニングを行うことを主眼として組み立てている。

この授業には、都市・建築的な思考について初めて経験する受講生が多数占めていることから、内容的に初心者にもわかるように、製図用具の使い方の説明からはじめて、平面図形の描き方や正投影の描き方などの基礎編から解説し、毎回のトレーニングを通して理解を深めていくように配慮している。

授業の工夫としては、よりわかりやすく空間認知力を培養するために、毎回教科書と別途に説明資料や模型などの見本を用意し、解説後にすぐ演習を始めて、その場で質疑を受け、理解度向上を図っている。また、空間力だけではなく、表現力も養うために一定のスケッチ演習 (課題として提出) も平行して行っている。

3. その他のコメントや連絡事項

作成 (者): 郭東潤

授業科目名	: 都市空間工学演習 I (0 9 T 以後学生用)
担当教員	: 中谷 正人 , 郭 東潤
年次・開講時限	: 3 年前期土曜 3,4 限
授業コード	: T1E096003
授業アンケート	: 回答者数 13 人 / 受講者数 19 人 (回収率 68%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 12 件)

授業内容に関する評価項目では、約 8 割の受講生から高く評価された【はい (58.3%) + ややそういえる (25.0%)】。この結果は現場中心の授業の組み立てに起因すると考えられる。学生の創意的提案に対し、生活側面からの現実的なコメントを得ることにより、地域社会や住み手の問題をより深く理解することができる。また、グループ発表と個人提案発表を通して、授業内容の理解力の向上に繋がったと判断できる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

この演習科目は、一定規模の建築・都市のデザインについて構想、企画し、計画を定め、総合的にまとめあげるトレーニングを行うことを主眼として組み立てている。さらに、地域社会や住環境の課題を学生に与えることにより、現実の都市環境に対する読み解き方や具体的な方案を探ることも目的として行われている。そのため、予め地元住民や行政の理解を得て、受講生同士でチームを組み、地元住民の意見や現地調査、討議を重ねながら行われている。

この授業には、大きく 2 つの工夫を授業に取り入れている。一つ目は、4~5 人のグループ提案と個人提案の両立である。異なる経験や考え方をを持ったメンバー達が共通の問題意識を組み立て、グループとして解決方を構想し、さらに個人的提案にグループ構想を反映することで、総合性かつコミュニケーション力の培養を期待している。二つ目は、現場中心の授業特徴を活かし、地域住民との意見交換を授業に取り入れている。学生の創意的提案に対し、生活側面からの現実的なコメントを得ることにより、地域社会や住み手の問題について理解することである。

3. その他のコメントや連絡事項

この評価結果は、一定の成果をあげたことを示していることから、当面、現在の授業の進み方を継続していきたい。一方で、今後も社会人も含め、受講生に対する柔軟な対応ができる学習方法を考えたい。

作成 (者): 郭東潤

授業科目名	: 環境エネルギー化学工学 ((旧名称「エネルギー化学工学」))
担当教員	: 小倉 裕直
年次・開講時限	: 3年後期木曜 6 限
授業コード	: T1E101001
授業アンケート	: 回答者数 0 人 / 受講者数 2 人 (回収率 0%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q10. 授業では宿題, レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか? (回答 11 件)

多くの評価についてほぼ 4 以上であり何とか努力の成果が出たと思われる。特に、「3 教員の声はよく聞こえましたか?」、「5 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか?」、「9 例題, 例え話やサンプル等がわかりやすかったですか?」、「10 授業では宿題, レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか?」、「12 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか?」、等は評価が高く、実際の環境問題における処理工程では、各種計算の基礎として物理化学および化学工学の基礎概念で習得したものが大いに役に立つことを踏まえ、学問基礎と実例の関連を挙げながら説明したことが良かったと思われる。基礎概念は理解して式を使う、ことを目標として、複雑になりすぎる各種計算式の誘導などは避けた。多方面にわたる参考書からオリジナルのストーリーを作り、主にパワーポイントによる解説を行った。このような努力が学生の理解を高めることに役だったと判断する。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 11 件)

しかしながら、このような努力が裏目に出た部分もある。それは、「15 この授業内容をよく理解できましたか?」、「16. 講演実全体を通して、この授業に満足しましたか?」の評価は平均を上回っているものの 4 を切っており、必要とされる物理化学および化学工学の基礎概念を全てこなそうとして要点等を供給しすぎ、理解を深めさせるべく課題提供等に多くの時間を割けなかった点である。またエネルギーシステムの実例等もなるべく多く見せようとして、演習等の時間が足りなかったと考えられる。

なお、「14 あなたはこの授業で質問をしましたか?」については、実際には、授業後半でのプレゼン演習にて全員から質問してもらっている。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

アンケート結果における理解しにくいと感じられている点を、まずは改善する。物理化学、化学工学の基礎分野は復習的に行い、応用的な部分を中心に適切な進度にしたい。また、パワーポイントによる表現を多用し学生がノートをとる時間が十分ではなかったことにも起因しているので、パワーポイント資料の配布等も併用したが、内容自体も削減する。さらに授業の理解を深めるために、宿題、中間レポート、学生の調査発表等も今後も多めに活用したい。

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 小倉 裕直